

英語拠点校連絡協議会資料 伊自良南小学校 (岐阜地区実践交流会でのプレゼン原稿)

本校の児童数は140名。全学年1学級、特別支援学級を含め、7学級の小規模な学校です。

本校では今年度から2年間にわたって文部科学省の「小学校における、英語活動等国際理解活動推進事業」の拠点校として指定を受け、実践的な研究を進めることとなりました。

しかし、本校には英語の免許を持つ学級担任はいません。そんな中で研究を進めることに多くの戸惑いがありましたが、学級担任が主体となって指導する英語活動のあり方を求め、取り組んでまいりました。つたない実践ではありますが、本校が取り組んできた内容について紹介させていただきます。

本校の研究主題は、「楽しく学び、豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとする子を育てる英語活動」です。その中心となるキーワードは、「楽しい英語活動」です。

はじめに、この研究主題を設定した経緯をお話します。

平成15・16年度の2年間、本校では国語と算数を中心に「確かな学力を身につける学習指導のあり方」を研究してきました。その実践を通して児童の課題点を、次のようにとらえました。

仲間の考えを深く聞き取り、学んでいくことが弱い。

自分なりの考えを、仲間に広げていくことが弱い。

また、こうした課題の背景には、次のようなことがあるのではないかと考えました。

ア 保育園以来少人数で育ってきたため、仲間への固定した見方があること

イ 心を解放して仲間とかかわり合おうとする意欲や体験が少ないこと

このような実態から、自己表現力の弱さに課題があると捉え、自己表現力を身につけるために全校で取り組める内容として、英語活動がふさわしいのではないかと考えました。

英語は、どの子ども初めてふれる言語であり、国語や算数に比べてスタートラインが近いというよさがあります。さらに、楽しい活動を取り入れることで誰もが意欲的に取り組み、今までの人間関係を打ち破って自分を素直に出しやすいのではないかと考えました。

ただし、中学校における教科英語の先取りをしないように、英語嫌いを作らないように心がけていこうと確認し合いました。

つまり、英語を書いたり読んだりすることを避け、話すことを中心とした楽しい英語活動にしていこうと考えたのです。

こうした経緯で英語活動を主題研究に位置付け、「楽しく学び、豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとする子を育てる英語活動」を研究主題に設定しました。

さて、児童の昨年度までの英語活動での実態は、次の通りでした。

学習の流れが分かり、覚えた言葉を使って進んで話そうとすることができる。
ALTの発音をよく聞いて、まねしようとする
ことができる。
ゲームやクイズ等に積極的に取り組み、楽しく活動できる子が高学年になるほど少ない。
英語の時間を楽しみにしている子が高学年になるほど少ない。
分からないことを尋ねる子が増えつつある。
自分の思いを相手に伝えるための意欲や表現力が弱い。

このことから、低学年においては、活動を楽しみ、英語を使って意欲的に表現しようとするのに対し、学年が上がるにしたがって、自分の思いを相手に伝えるための意欲や表現力が弱くなってくるととらえました。

そこで、願う児童の姿を次のように設定しました。

覚えた英語で、自分の思いをはきはきと表現する子
身近な英語に触れて、歌や遊びなどの活動を仲よく楽しむことができる子
簡単な英語で活動をしながら、聞いたり話したりする
や
りとりを誰とでも楽しむことができる子
簡単な英語で、気持ちや考えを伝え合うことを誰とで

そして、願う姿の実現に向け、研究仮説を次のように立てました。

身近な英語を使った歌や遊び・ゲームなど、子どもたちが興味をもち、仲間とかかわり合える活動を設定し、題材計画や活動を工夫して的確な指導・援助をすれば、子どもたちが楽しく学び、豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとすることができる。

その中で、今年度は特に、

「豊かに自己を表現する英語活動の工夫・改善」に的をしぼり、本校が考えた英語活動の流れの中の「Play Time」を中心に実践を進めました。

「Play Time」については後ほど述べますが、紀要の7ページにのせていますのでご覧ください。

では、具体的な取り組みを紹介します
ここでは、研究内容に沿ってお話しします。
最初に、研究内容1[英語活動の年間指導計画の工夫と改善]についてお話します。

1つめは、

題材の配列、語彙、文型における他の学年との関わりについてです。

まず大切にされたことは、ALTとの協力でした。

指導計画はALTと打ち合わせをしながら、月ごとの題材からユニットの考え方を取り入れて加筆・修正してきました。これによって、1ヶ月4回という枠がはずれ、題材中のスキットが難しい場合は、指導計画を長くしたり、ハロウィンなどのように季節感のあるものは、短期間で取り組んだりできるようになりました。

このように、児童の発達段階やスキットの難易度に柔軟に対応したことで、活動に対する意欲の高まりが見られるようになりました。

本日、公開しました5年生の「Daily Life」では、冊子にまとめた指導計画と指導案では異なった活動になっています。このように前年度につくられたカリキュラムをもとに、今も指導計画を改善しています。

2つめは、

発達段階に応じた活動の開発についてです。

ここで大切にされたのは、発達段階に応じた題材選びです。

これは、2年生の実践です。2年生では、教室で飼っている虫が大好きという実態から、「昆虫となかよし」の題材を考えました。児童は、虫の名前を意欲的に覚え、自己紹介のスキットを使いながら体がふれあうゲームを楽しむことができました。

2年生の実践に対して、5年生では、電話でのやりとりをする中で、仲間と遊ぶ約束をする活動を行いました。自分の都合のよい曜日に遊ぶ相手を決めるという活動は、「なんとか遊び相手を見つけない」という気持ちにつながり、電話での対応のスキットを使いながら多くの子と会話することができました。

このように、低学年では、児童が興味・関心のある題材を選ぶことやゲームそのものの楽しさが英語活動の楽しさにつながりました。

しかし、高学年になるほど、「いろいろな子と英語を使って話すことができた。」「英語を使ってお互いのことを伝え合うことができた。」など気持ちや考えを仲間と伝え合うやりとりができたとき、楽しさを味わうことができるので、発達段階に応じた題材選びの大切さが分かってきました。

次に、研究内容2[楽しく学び、コミュニケーション能力を高める活動展開及び指導・援助のあり方]についてお話します。

1つめは

実態を生かした活動の工夫についてです。

本校では、1単位時間の英語活動の流れを次の5つに分け、児童の代表である Today 's Leader が活動を進めます。

今年度、研究の中心に考えてきたのはその中の Play Time での活動内容 です。Play Time が児童の自己表現力をつけるための大切な場ととらえたからです。

では、実践にそってお話します。

たんぽぽ学級では、「はらぺこあおむし」を題材にして、10までの数を大きな声で言える姿をめざしました。そのために、「はらぺこあおむし」の劇を活動に取り入れ、食べ物を数えながら食べるというシナリオにしました。また、活動に集中できるようにと紙粘土で作ったイチゴやプルーンなどを個別に用意しました。児童は、青虫になって1個から10個の食べ物を食べる中で、1~10までの数を何度も言うことになり、だんだん大きな声で数えることができるようになりました。

このように、中心となる言語材料が何度も出てくる場を意図的に設定し、繰り返し練習できることが、安心して表現することにつながりました。

1年生の「色となかよし」では、ゲームに双六を取り入れました。ペアで協力して、どんどん双六を進めていくルールにしたので、相手を励ましたり、言い方を忘れたときはヒントを出したり、いっしょにシールをもらいに行ったりとなかよく活動することができました。仲間と関わって活動する楽しさを味わうことができました。

3年生の「はらぺこあおむし」では、Story の中で、青虫が食べ物を食べ過ぎておなかをこわす場面があるのを利用し、Play Time では、secret card を用意しました。食べ物をたくさん集めることはいいけれど、secret card をもらってしまうとおなか痛くなるというルールを設定したので、物語に合わせた場面を設定することで、ゲームのやり方が分かりやすくなり、児童はたくさんの食べ物を集めたいけれど、secret card をひいてしまったらどうしようというドキドキ感をもって活動を楽しむことができました。

4年生の実践では、お店屋さんとお客さんに分かれて英語でのやりとりをするとき、お店屋さんやお客さんに「なりきる」ことを大切にしました。「なりきる」ためには、進んで仲間と関わらなければならないからです。

その結果、お店屋さんの児童は、多くの子に商品を買ってもらうために、覚えた skit を使って、はきはきと話すことができました。逆に、お客さんの方は、少しでも安く買おうと値段を交渉する姿が見られました。

6年生の「世界のレストラン」では、多国籍レストランをイメージして、グループごとに国を決め、レストランを開くことにしました。インターネットなどを利用して料理について調べの中で、自分が調べた料理について相手に伝えたい、相手の調べた料理について知りたいという意欲につながり、積極的に仲間とかかわることができました。

このように、実態に応じた活動を工夫することで、表現する意欲が高まり、仲間と関わる楽しさを味わうことができ、その結果、豊かに自己を表現する姿につながることに気づきました。

つぎに、活動を高める指導・援助のあり方についてです。Play Time では、HRT が中心となって活動をすすめています。

本日の5年生の活動で説明します。

Play Time で、HRT が Today ' s Target を示しました。これは、この時間の到達目標を具体的な姿として児童に分かるようにするためです。

到達目標は、態度面での姿の Friendly と、活動のめざす姿の「インタビューをして、友達の生活を詳しく知ろう」の両方を示します。

本時のデモンストレーションでは、My book を使って活動内容を示し、中心となる言語材料を焦点化して表情豊かに表現するようにしました。こうすることによって、児童は活動に見通しをもち、どう達成すればよいか分かりました。

その結果、児童は楽しく活動し、意欲的に表現することができました。

しかし、活動中につまずいた児童への HRT の関わり方や活動に必要なものの準備が、不十分だったこともありました。こうした、人的・物的な援助について、今後も考えていきたいと思います。

次に、評価についてです。

今回、5年生の英語活動では、試験的に自己評価をカードに記入する方法を取り入れました。

今年度、本校では、記述による評価は行わず、児童による相互評価や教師からの評価はいずれも話し言葉によるものでした。

今回の5年生の評価のしかたを検証し、今後は、児童による自己評価や相互評価を学年に応じてどのように取り入れるかを検討していきたいと思っています。

以上の実践から、次のような成果がありました。

研究内容1 - では、月ごとの題材活動計画からユニットの考え方を取り入れて題材を配列したことが、児童の実態や難易度を考慮することにつながりました。

研究内容1 - では、Play Time の活動を児童の実態に合わせ、興味もてる題材にしたことが、生き生きと自己を表現することにつながりました。

研究内容2 - では、活動内容を工夫し、仲間と関わりながら課題を達成するように設定することで、児童が、意欲的にスキットを使い、気持ちや考えを仲間に伝え合う楽しさを味わいながら、豊かに表現する姿につながりました。

研究内容2 - では、活動を高めるために、HRT・ALT が表情豊かにデモンストレーションして、本時のめざす姿や活動内容を示すことで、児童が、楽しく活動し、意欲的に表現する姿につながりました。

さて、私達が、この実践を進める中で、英語活動を成り立たせるために大切なことは何かと考えたとき、次の3点ではないかと思いました。

一つ目は、日頃の学級経営と児童理解です。英語活動の中で「なかよしの言葉」を使いながら、誰とでもやりとりを行うことが楽しさにつながるからです。

二つ目は、HRT が主体となる授業です。活動計画を児童の実態や変容に敏感に反応できる HRT が立てることで、活動や指導・援助の工夫ができるからです。また、活動計画を持って ALT との打ち合わせると、活動内容を理解し合うことができ、Play Time にスムーズに入ることができました。

三つ目は、児童が進んで英語で話したくなるような環境づくりです。そのために、HRT が Classroom English を使うように努力しています。その場に一步入れば、英語を話したくなる雰囲気づくりを心がけ、今後も工夫したいと思います。

次に、課題です。

研究内容1では、発達段階に応じた活動がどのようなものかを、順序の入れ替えも含めて、今後も検討していきたいと思います。

研究内容2では、評価のもとになるめざす姿の修正を行い、具体的な評価の窓を教師がもつことによって、適切な評価方法を選択し、次の活動への意欲化が図れるようにしていきたいと思います。

本校の教員は、4月に在校教員による模擬授業を通して1単位時間の流れを知り、先進校の見学を通して、少しずつ研修をつんできました。

また、1年間で担任全員が英語活動の公開をすることで、互いに研鑽を重ねてきました。

しかし、ALTから何度教えていただいても、なかなかClassroom Englishを使うことができず、冷や汗をかくことが何度もありました。

そんな中で、他教科ではあまり目立たない児童が、英語活動になるとはきはきと表情豊かに表現していたときや、全校の前でもマイクを使わずにはきはきと話す姿を見たとき、研究を進めてきてよかったと感じることができました。

これまでの実践を通して、新たな課題もいくつか見えてきました。遅々たる歩みではありますが、来年度に向け、一步でも前進できるよう、全職員で一丸となって取り組んでいきます。

これをもちまして、伊自良南小学校の実践発表を終わります。